

自治労・東学ニュース

東京都学校事務職員労働組合（東学） 新宿区西新宿2-8-1 都庁第2本庁舎32階
（学校の統廃合特集号） 2025年4月14日発行 NO.720

少子化の進展を受け、学校の統廃合が進む 小中学校は地域のコミュニティの核でもある

文部科学省は、少子化・人口減少、教師不足などの状況変化を踏まえ、学校の適正規模・適正配置の在り方について、「協力者会議」を設置して調査研究を開始しました。

- 教育効果や通学負担、効果的な遠隔教育の実施等を踏まえた学校、学年、学級の適正規模、学校の適正配置の在り方。
- 弾力的な学校配置を可能とする仕組み（通学支援、分校・寄宿舎の設置等）の在り方。
- 効果的・効率的な学校の存立に資する工夫（他の公共施設との複合化、社会体育施設との供用化等）の在り方。
- その他学校の適正規模・適正配置を推進する教育行財政の在り方（廃校の活用を含む）。

小中学校数と児童生徒数の減少 標準規模

令和6年度の公立小中学校の学校数は、平成元年度と比較して21.7%（7,647校）減少、10年前（平成26年）と比較して9.0%（2,728校）減少。令和6年度の公立小中学校の児童生徒数は、平成元年度と比較して41.6%（6,190,031人）減少、10年前（平成26年）と比較して10.5%（1,016,054人）減少。公立小学校の約4割が、公立中学校の約5割が標準規模を下回っています。学校規模の適正化をはかる上で、保護者や地域住民との合意形成や地域コミュニティの維持、交通事情等が、課題とされます。

適正規模・適正配置に関する基本的な考え方

- 児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという特質を踏まえると、学校については、一定の規模を確保することが望ましい。

※小規模の場合には、例えば以下のような課題が生じる。

- ・クラス替えができない、クラス内で男女の偏りが生じる、人間関係が固定化する。
- ・多様な意見に触れることが難しくなる、スポーツ実技や合唱・合奏などが困難になる。



- そのため、文部科学省では、小中学校の学校規模（学級数）の標準等を設定。

（学校教育法施行規則において、学校規模の標準は、小中学校ともに、12学級以上18学級以下）

- 学校規模の適正化の検討は、あくまでも児童生徒委の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきもの。

※学校には一定の規模が必要な一方で、統廃合の結果、極端に長距離の通学が求められることなども問題。

- また、学校は地域のコミュニティの核として、防災・保育・地域の交流の場等の機能を併せ持つ。地域の事情により、学校統廃合が困難な場合や小規模校として存続させることが必要な場合もある。

⇒統廃合することも、小規模校として存続させることも、設置者である自治体が判断。

※小規模校として存続させる場合、メリットを最大化するとともに、デメリットを最小化するような工夫が必要。

東京都でも2023年以降に小学校の児童が減少し始めています 進む学校の統廃合

東京都では、2017年以降出生数が減少、コロナ禍の影響で2020年以降その傾向が強まり、2023年以降に小学校に入学予定の子どもが減り続けます。地方で先行した少子化の影響が、東京でも始まります。2027年の児童数は、23区の中でも19区で減少し、うち7区では10%以上の減少が見込まれています。

23区では江戸川区や中野区で、26市では町田市や八王子市、東大和市、小平市などで統廃合が進んでいます。遠距離通学や地域コミュニティ、防災の拠点がなくなります。中央区や文京区では、児童数が増え、教室の確保が課題となっているという。

標準服の無償化 リユースやレンタルも

最近の物価高に伴い、中学生が着る制服（標準服）も値上がりをしています。保護者の負担を軽減するために、制服リユースやレンタル、無償化などを実施する自治体も増えています。負担の軽減は必要ですが、そもそも高額な制服が必要なのか、疑問もあります。

品川区では、来年度から標準服を無償化

品川区は、来年4月から、区立中学校の1年生と区内在住の特別支援学校中学部新1年の標準服を無償化します。対象は、標準服の上衣（ブレザー、ジャケット）と下衣（スラックス、スカート）。保護者が学校に標準服のサイズを申告し、公費で一括購入し、入学前に受け渡すという。所得制限のない無償化です。

中央区では、制服のリユースを始めて1年

中央区（区立幼稚園、小学校、中学校に標準服を導入）では、昨年度から標準服のリユースを開始しています。使用しなくなった標準服を区が委託した事業者が回収し、クリーニングと補修して品質を担保した上で、希望者に実費（1,500円程度）で販売します。今年1月末までに標準服を799枚回収し、リユースできない3割を除き、477枚をクリーニング、販売実績は181枚にものぼるという。ごみの減量の観点からも、環境負荷軽減の意識も期待しているという。区民からは、好評だという。

「学校制服はあった方がよい」と回答した中高生8割以上 「個性が出ない」という声も

ある学生服会社の調査（中高生）によると、学校制服は、「あった方がよい」（45.8%）と「どちらかと言えば、あったほうがよい」（37.6%）を合わせると、8割以上の中高生が、学校制服は必要だと回答。学校制服の良い点は、「学生らしく見える」（男子51.8%、女子66.2%）、「毎日の服装に悩まなくてよい」（男子42.7%、女子66.2%）という回答が多く、「どこの学校か一目でわかる」「服装による個人差がなくてよい（平等である）」などもあります。

個性や多様性が尊重される時代。みんなが同じ服でいいのか、疑問もあります。